

# 町医者だより

平成19年02月号

＜発行・お問合せ先＞

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

1分ミスタードーナツ並び

スーパーつるかめ(旧フレック)2階

電話047-379-6661

おおわだ  
内科  
呼吸器科

## ニューモバックス(肺炎球菌ワクチン) について

この冬は暖冬でインフルエンザの流行も2月にずれ込んで例年にない動きをみせています。今月は先月号の「肺炎を防ぐ」でも取り上げましたニューモバックス(肺炎球菌ワクチン)のお話です。

### 肺炎球菌とは

肺炎球菌はグラム染色という細菌検査で陽性に染まる2つの球体がくっついた形の細菌(双球菌と言います)で、肺炎の患者様から検出されたため命名されました。現在も肺炎の原因菌の代表ですが、小児では中耳炎や髄膜炎の原因菌でもあります。近年ペニシリン(抗生剤)が効かなかつたり、効きが悪い肺炎球菌(PRSPとかPISPと呼ばれています)が増えてきています。

### ニューモバックスとは

肺炎球菌は単一ではなく多数の亜型(あけい:家族のようなもの)があります。肺炎、敗血症(細菌が血液の中に進入した状態)、髄膜炎の原因となる亜型の中から選択された23種類の肺炎球菌の膜の一部を使用して作られたワクチンがニューモバックスという名前のワクチンです。これ自体に感染性はありません。新しいワクチンと思われるかもしれませんが日本では1988年から使用が開始され20年近く使われています。国内では万有製薬1社が供給しています。

### ニューモバックスは65歳以上の方に接種をお勧めしています

本ワクチンはあくまでも肺炎球菌による感染症にのみ有効でその他の細菌にはまったく効きません。そして奇妙に思われるかもしれませんが肺炎球菌による肺炎の予防に関しては効くという報告と効かないとする報告があって結論が出ていません。しかしながら、海外での大規模な調査で本ワクチンが肺炎球菌による敗血症や髄膜炎の予防に大変有効であることが証明されています。実は敗血症や髄膜炎の予防がとても大事なことなのです。なぜならば65歳以上の方では肺炎などから感染が拡大して敗血症になってしまう頻度が明らかに高く、一度敗血症になってしまうと20%近くの方が亡くなってしまいますからです。

### 低いニューモバックスの接種率・認知度

私が勤務していました順天堂東京江東高齢者医療センターで入院歴のある65歳以上の145名の患者様およびその御家族にニューモバックスを接種していたか2-3年前に電話で聞き取り調査を行いました。わずか1.4%の方が接種しているに過ぎませんでした。WHOも接種を奨励していますが、疾病予防に熱心な米国では65歳以上の方の実に56%が接種しており、2010年までに接種率を90%まで引き上げる政策が進行中です。抗体の自然減少の関係で海外では5年に一度の接種が推奨されていますが、日本では一生に一度の接種のみで再接種は現時点では認められていません。接種料金は自費でおおむね7000円前後です。これまで副作用は特になく、注射部位の発赤・腫脹がまれにみられた程度です。接種は一年中可能です。海外ではインフルエンザワクチン接種とセットで接種することが多いのですが、私は出費も考えて春先から秋口くらいの接種を勧めています。

### 海外では小児への新しい肺炎球菌ワクチンの接種が始まっています

小児では肺炎球菌、特に抗生剤の効かない肺炎球菌による中耳炎、髄膜炎が問題になっていますが、海外では新しい肺炎球菌ワクチンの接種が一般的な予防接種事業に組み入れ始めており、少なくとも髄膜炎の予防に効果を上げています。